

総務、産業、建設常任委員会記録

招 集 年 月 日	平成28年3月24日(木)
招 集 の 場 所	議員控室
開 会	午前9時30分
出 席 者	委員長 我妻 薫 副委員長 山岸 三男 委員 藤田 洋一 委員 櫻井 功紀 委員 鈴木 宏通 委員 前原 吉宏
欠 席 者	委員 千葉 一男
職務のため出席した者の職氏名	議会事務局次長 佐藤俊幸
協 議 事 項	・農商工連携による活性化について
そ の 他	
閉 会	午前11時14分

2号様式 協議の経過

<p>我妻委員長</p>	<p>おはようございます。先日は打ち上げ、大変盛大におこなわれまして、ご協力に感謝しております。その前の分科会の議論、長い時間、分科会の討論、大変ご苦労さまでございました。</p> <p>当委員会、政策課題についての研究にいよいよ入ろうかと思っておりますので、今日はその部分について確認したいと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>委員6名出席しておりますので委員会は成立しております。千葉委員は欠席との通告がございましたので報告しておきます。</p> <p>それでは先ほど冒頭でも述べましたが、当常任委員会の政策課題については「農商工連携による活性化について」ということで確認していただきまして、本会議でも確認いただきましたが、いよいよ中身に入っていくわけですけれども、かなり広いわけで、どういったところから切り口を求めて入っていったらいいのかなど、そういうことで今日、皆さんに突き合せていただひいて、その辺を確認していきたいなと思ひますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>鈴木委員からは奥州市の参考事例としての資料、プリントしてもらひまして、あとは藤田委員からは農商工連携の事例集、これもホームページに出ていまひて、それもプリントしてきていただいたので、皆さんにも見ていただいたほうがいいのかなというふうに思ひまして、今、次長に資料をコピーしていただひているところでございます。</p> <p>プリントを見てから始めたほうがいいですか。参考資料を見ながら、ということにしますか。</p> <p>(「はい」の声あり)</p> <p>じゃ、そういうことで若干、休憩したいと思ひますがよろしいですね。</p> <p>(「はい」の声あり)</p> <p>休憩いたします。</p>
	<p>休憩 9:37 再開 9:46</p>
<p>我妻委員長</p>	<p>再開いたします。</p> <p>今、農商工に絡んだ資料として鈴木さんから奥州市のバイオマスタウン構想、あとは藤田委員から農商工連携事例集と。</p> <p>最初のほうは一覧表が載っていますが、これ全部でなく選んだやつかな、全部載っていないですね。北海道、東北だけ、一部の資料が載っていますが、一覧表は全部鹿児島まで、沖縄まで入っています。(「北海道から沖縄まで載っている」の声あり)一応、用意してきていただいたので、せっかくなので皆さんにコピーをお届けいたしました。</p> <p>そういったのを参考にしながら、農商工連携と言ってもいろいろ幅が広いようでございますので。我が常任委員会としては、どういうところを基</p>

	<p>本に議論をしていくか、皆さんからご意見いただければというふうに思います。</p>
山岸委員	<p>じゃ、私からいいですか。</p>
我妻委員長	<p>はい、副委員長。</p>
山岸委員	<p>皆さん、まだ意見出さないなら、私から。</p> <p>私も農商工連携ということを主張した一人として、この常任委員会で取り組みたいのは、現実的に美里町の農商工業の振興、発展あるいは商品開発という観点で考えたときには、まず今現在あるもの、現在流通しているもの、それに現実的に、それを新しい発想をすとか、あるいはそれを通じた今あるものから新しい商品開発をすとか、そういう現実的なものに取り組みたいと私は思って、今回の農商工連携ということを常任委員会のテーマにしたいと思ったんですけども。</p> <p>今、美里町でまさに平成 30 年、31 年には活性化拠点施設をオープンしようとして進んでいます。我が常任委員会としては、美里町のそういう活性化につながるようなテーマというか内容に持っていきたいと思っておりますので、現実的に考えたときに今、美里町には大きな産業というか農産業になっていますバラの生産、さらにはナシ、あとはコメ、コメは六次産業化でいろんな商品開発をしています、現実的に。町内では餅を作って商品にして売っている商工業者がありますから。</p> <p>それらを総合的に全部持っていくと難しいと思うので、ある程度絞った形で、美里町にある、今、現実やっているやつをもう少し活性化できるような内容の研究テーマにしたいなと思っておりますけれども。</p> <p>今、私、直接具体的にはあんまり知識ないから言えないんですけども、それをこの常任委員会で皆さんからいろんな意見を聞いて、美里町に直接、農商工業の活性化につながるような内容の研究テーマにしたいと思っておりますので、それぞれ皆さんもいろいろすぐパソコンなんかで資料を取り寄せられるような今、状況になっていますので。</p> <p>そういう進め方をしていただければなと思っておりますので、よろしく協議していただきたいと私は思っています。</p>
我妻委員長	<p>今、副委員長からは現にこの美里町内にあるものを、その生産物なり、ま、現実にあるものから出発ということ。ないものを今から作り出そうと言うのではない。</p> <p>その辺はいいですね。基本的に町にあるものをどういうふうに連携して新たな商品作り、あるいは販売の在り方とか。</p> <p>その中にも一つ関連しようかと思うので、鈴木委員から出してもらった奥州市のバイオマスタウン構想、これはエネルギーですね、農産物をベースにしてバイオマス。</p>
鈴木委員	<p>私がかつて一般質問なんかでもいろいろしたことがあるんですが、町自体でのエネルギーのいろいろな地産地消のエネルギーを考えないかということで一般質問をしたことがあり、前にその資料として奥州市のことを私も参考にしたことがあるんですが、その中ではさまざまないろんな地産地</p>

	<p>消のエネルギーを得るためのそういうバイオマス、例えば稲ワラ、木材、さまざまなことをエネルギー源として、このバイオマスのエネルギーを得て、町のエネルギーを自分たちで作りたいというところをしているのが奥州市の市としておこなっている事業なので。</p> <p>そしてその中の一つの中で私がこの前、説明申し上げましたコメからエタノールを作りまして、エタノールを化粧品として、今、その中の一つとして作っているのが、この中に少ししかないのですけれども、6枚目になりますかね、エタノールを作りまして、それから本当はエネルギー開発にというところだったんですが、開発費がかなりかかるというので、独自にまた商品開発をいたしまして、女性用の化粧水を新たに作りまして、地域の方と共に商品開発に当たられた女性の方と共にベンチャー企業を起しまして、コラーゲステーションというので化粧水を作っている経緯がありまして、なかなか女性には好評な商品として商品化されて、石鹸やさまざまなものを今、商品化を進めておられるプロジェクトチームがあります。</p> <p>そのほかにも、もちろんバイオマス構想の中のバイオエタノールまたはチップ、あとは家畜用のそういうところのエネルギー開発なども積極的におこなっている市でありますし、こういう市の構想として、ま、ちょっと大きいですが、そういう構想はいかななものかなと。</p> <p>その中の一つの、私のコメからつくるものの商品化、農商工連携ということで女性の起業家のことをこの間、説明を申し上げました。</p> <p>こっちにも、そのコメの資料、コメからつくったベンチャー企業があるんですけれども。</p>
我妻委員長	単なるエネルギーだけじゃなくて、そういう化粧品とか、その辺も。
鈴木委員	<p>一つとしてそういうことがありまして、私も大きな構想はこのバイオマスタウン構想というのは素晴らしいなと思っているのですが、その中の一つ、ベンチャー企業によるコメからのアルコールによる商品開発をして、女性のニーズを得た商品開発をしているというところが素晴らしいところだなと。そしてコメも食料のコメは別にして、飼料米というところの食糧とはかち合わないところのコメを使いながら、このアルコールをつくって化粧品開発などしているというところが、また地域の方に認められて、いろいろコメを一生懸命作っているというところがいいかなと思ひまして、ご提案を申し上げた次第です。こういう事例があるということで。</p> <p>私たちの町でも同じことをするのではなくて、そういう事例がありながら、いろんな付加価値またはいろんな商品開発の新たな方向を見つけながら進められればいいかなと思ひまして、ご提案申し上げました。</p>
我妻委員長	コメからのエタノール。今のところベンチャービジネスは、この化粧品、まずエタノールが一つね。
鈴木議員	コメからのやつは一つです。奥州市の。あと多分、多岐にわたっているような連携があったと思いますけども。

我妻委員長	<p>やはり美里にあるものを活用して今のベンチャービジネスに行けばいいんですが。まず美里にあるものの確認が必要なのかなという気はしますけれど。</p> <p>私もちょっと見たのは加美の例でして、これ奥田建設が関与しているやつで、東北大学農学部なんかとやっている、ワサビを使った、これも入っているでしょ。(「仙台の奥田建設だよね」の声あり)うちのほうはワサビというのは取り組んでいるところがないので。</p> <p>(「ワサビ、小野田なんですね」の声あり)</p> <p>加美町の中で建設会社が参入したというのでこれに入っています。</p> <p>あとは野菜の生産流通システムの構築、せっかく石巻から工場が入ってきているので、今、野菜のカット野菜が中心ですかね、あそこはね。</p> <p>そういう意味で農産物の現状とあと町内にある企業との連携。あとはせっかくだから宮城大学なんか協力関係にある、そういったところの今ある資産として、そこからどういうのをね。多分、産業振興課とか、それに向けてそういった連携はしているのかなとは思いますが。</p> <p>その辺の現状をまず掴むということも大切なのかなと思います。今、鈴木さんから言われたように、それをベースにして奥州市とかほかの事例なんかを一応参考にしながらね。</p> <p>はい、藤田議員。</p>
藤田委員	<p>うちのほう、バラを使った化粧品ですか、そういうのはどのように進んでいるのか。バラなんかもいいんじゃないかなと思うんだけど。そういうのが、うちのほうにもあるんだから、そういうものを生かしたもののとか、あと鈴木さんが言われたやっぱりコメなんですね。木材とかは岩手県は山だらけだから、葛巻でもそれやっているんですよ、チップなど、あと堆肥とか。何年か前に議運で行ったときに言っていた、バイオマス。あそこは町長が先頭になって有名なんだ。</p> <p>やっぱり、うちのほうは本当に田んぼしかないから、そこに絞り込みながら適したものをやると。</p>
我妻委員長	<p>町内にある資源、それを一回、現状を確認するのがまず。バラ、せっかく宮城大学の学生たちから提案されている活性化のあれもあるんで、あれがどこまで進んでいるのかというのがやっぱりあるんで。</p>
鈴木委員	<p>いいですか、バラのそういうような化粧品、香水、そういうふうな新たなニーズ、開発ができれば、バラをつくっている方々の付加価値として新たな商品化ができるのではないかなと思うんで。</p> <p>せっかく宮城大学の方々のプレゼンを受けた中で、結局、町づくりのほうでどのように進めているか、やっぱり確認をして、活性化できるかどうか、どこまで動いているかをまず確認をしたほうがいい。(「現状ね」の声あり)このプレゼンを受けてからの。</p>
我妻委員長	<p>今出されたの、藤田さん言われたように、今、執行部側で進めようとしているのも、施設に関しては、あそこから情報発信も重視しているわけでしょう。その施設の中にちょっとした化粧品とか、そういったものを見学</p>

	<p>できるような施設も含めてセットできるというような方法もある。何を入れるかも、それが今検討されているのだろうけれど。そういった作業、大工場でなくても、その施設の中で美里の特産の、何か加工しているものがそこで作業が見られる、そこで発信できる、そんな総合的な施設なんかというの、ま、恐らく町長の頭にもそういうのがあるのかなという気はするんだけど。</p>
鈴木委員	<p>あと、もう一ついいですか。</p> <p>最後の議会の日に、起業家を呼んででそういう事業展開をするという、そういう中で、そういう方々を呼んで新たな発想を、ある程度こちらからも提案しながら、こういうものをしていから来ていただけないかとか提案をしながら、これに関する商品化または広報、宣伝、そういうのはいろいろ来ていただくような形での企業誘致と言ったら変ですけれども、起業家を集うという形を取れないかなと。またその方々を呼んで、できればここで開発していただければありがたいなと。</p>
我妻委員長	<p>愛媛県では今、言ったようなITを活用した直売所、こっちで読み替えば施設の中でそういう情報発信も絡めた、そういった企業だって可能性はある。ただ、その前提として、やっぱり今、町内にある、まず基本的に農産物をベースにして、そこでどんな連携が考えられるかというふうな発想がベースでいいんだよね。</p>
山岸委員	<p>それは、もう少しあとのほうなんだけども。</p>
我妻委員長	<p>町内にある農産物をベースにするということでは、いいんですね。</p>
山岸委員	<p>もちろん、そうなんです。</p> <p>今、どっちかという漠然と、まだ確信的な部分に入っていないのだけれど、まず、最初に鈴木さんが言ったバラの、あと宮城大学の学生に去年いろいろ提案してもらった、やっぱり非常に若い人の感性というのは、若いときにしか出ないんですね。あれをもう少し私たちは受け止めなくちゃならないと。</p> <p>まず、私が最初に言った美里町にあるもの、バラ、まず一つあります。コメですね、ナシです、この三つですねよね、最大。それに若干、畜産。畜産は少ないけれども、宮城県の家畜市場があるということも一つのネームバリューだったり、発信源にもなると思うので、あるものを一回まとめて、それから商品開発だったり、商工連携に持っていけるように、話の進め方をしたらいいのかなと思ったんです。</p>
我妻委員長	<p>いや、私、同じようなことを言ったつもり。</p>
山岸副委員長	<p>だから俺が言いたいのは、ここでまず商品、美里町にあるものを何点か挙げて、そこから話の枝、葉を広げていかないと。</p>
我妻委員長	<p>私はそういう意味で言ったつもりなので、ありがとうございます、補強していただきまして。</p> <p>(「確認ということでしょうね」の声あり)確認ですね。</p>
前原委員	<p>もう一つ、コメ絡みで、ま、ちょっとブームが去ったのだけど、麴。あれ結構、広がるよね。</p>

鈴木委員	<p>個人的には米酢なんかも本当は需要があって、ほとんど農協で売っているような米酢は名古屋周辺からくるものが多いんです。</p> <p>普通の酢はいろんな原料があるんですけども、米酢の要望が軟らかいところとか、そういう部分があるんで、酒の次が酢なので、そういうところの麴とかコメの関連したところの、やはり売れる商品化に向けた部分も麴から来てつながっていきけるのではないのかなと、私も思っていますけれども。</p>
我妻委員長	<p>今、町内で発酵物、取り組んでいるのは味噌、醤油、納豆。 （「酒、川敬さん」の声あり） 酒ね。</p>
山岸委員	<p>去年あたりかな、酵母のえらく商品的に話題になったときがあった。塩麴だっけ、あれの商品が。</p>
我妻委員長	<p>今、副委員長から麴の話が出ましたけれど。 はい、鈴木委員。</p>
鈴木委員	<p>コメ麴、もちろん一番いいところなんですけど、その関連で例えばコメ麴から作る関連のものも含めて考えていただきたいとも思います。商品を絞るのも一つですし、それから波及する部分のことも考えながら、麴だけではないところも少し踏まえて考えていただければありがたいと思います。</p>
我妻委員長	<p>すると基本的に発酵という捉え方でね、農産物の豆とかコメとか含めて。それも町内にもある産業の一つでもあるし。 はい、前原委員。</p>
前原議員	<p>作物もそうなんですけれど、今、言った企業の中では、醸造元は川敬さんと鎌田醤油さんですね。ほかに大きいのは、渡辺採取場があるんですよ。渡辺採取場の持っている、私、素人だから何にもわからないんですけども、あそこは結局、種では各国に出すわけですから、そういうのはちょっと大きいかもしれないですけど、勉強の一つだと。</p>
我妻委員長	<p>それもね、つなぐ一つの要素として。 はい、櫻井委員。</p>
櫻井委員	<p>今、麴の話が出たんだけど、私、ずっとこれ読んでいたのね、暮らしの便利帳。</p> <p>ここに農村で受け継がれてきた製法の南郷味噌というのがあるのね。これは地元で栽培された大豆を原料に、自前の麴を使った昔ながらの手作り味噌、余計な添加物を一切使用していないので本物の味噌の風味が味わえると。花野果で売っているんだな。</p> <p>それからもう一つ、シソ。栗野さんの息子さんが帰って来てね。あ、シソでない、大葉の加工品。独自のドレッシング、シソ巻、それから大葉豆腐、大葉コンニャク、大葉の種、大葉と北浦梨。研究を個人でやっているんだね、この人。だから偉いなと思ってね。この間、東北放送が来てインタビューされていた。息子、夕方だったかな。それだけPRがまだ届いてないと思うんだけど、シソについてはね。シソも20年から30年ぐらい、お父さんがやっているんだよね、人を使って。</p>

我妻委員長	シソ巻は結構、岩出山とかでやっているけれども。
櫻井委員	もし現地とか、そういうふうな格好になれば、入れてもらいたいなと、この二つ。
我妻委員長	今、櫻井さんから出たように、結構、個人的にやっている。町で取り上げているのは、ナシのピューレ中心にやっているけれども。 産業振興課でも、大葉も出たことがある、ちょっとね。ま、今取り上げられているように。ただ、それらがどういうふうにつながるかも。 味噌も確かに南郷で始まって、地元産の大豆を使ったと。
藤田議員	ただ、シソね、シソの栗野君、私の家に持ってきたんだ、試食でシソのドレッシングみたいなの。若い人だったな。野菜なんかにかけて食べてみたら、いまいちだね。あれではだめだ。
我妻委員長	地元で努力している中に、そういう大葉を使ったね。
藤田議員	いいことなただけけれどもね。
我妻委員長	いろいろ、さっき出たのはバラを使った化粧品、これは学生から出された。はい、藤田委員。
藤田委員	米山で佐々木なんだっけ、県会議員、その人がダチョウの肉やったんですよ。そして南郷でも販売したのね。尻切れトンボでやめてしまった。ダチョウがいなくなってしまったんだ。今、すっかり何もなし。米山の道の駅でもやったわけだ。 ああいうの、いいかなと思ったけれども、やっぱり長続きしない。変わったことはいいいんだけれども、ベースはコメとか農産物。野菜、北浦梨、それをベースに。
我妻委員長	はい、鈴木委員。
鈴木委員	先ほど皆さんからいろいろ、やっぱりバラやナシ、コメ、そしてコメ麹や大豆に関わる発酵物関係なども出ましたけれども、例えばその中でも、やっぱり仮にバラにしても、化粧品やそういう香水等に回る余力があるかどうか。そして製品として、もちろん花として出す部分が主でしょうから、その中から仮に余りいいものでないものを二級品になった場合、処理として、もしできる部分で花などの加工ができるかと思うので、その量としてどれくらいあるのかどうか、まず考えなくちゃない。 (「確認して」の声あり) というところもあるでしょうし、例えば今、ナシのピューレをしている中で、そのピューレの商品化に向ける部分というのも、もちろん、今の六次化の中で、その中のプログラムの中に入っていることでしょうし、例えばそういう一つひとつの過程をやはり確認なり、見る必要があるのではないかと。
我妻委員長	はい、櫻井委員。
櫻井委員	現状はどの程度になって、どのくらい物産で販路がどこに行っているとか、それもやっぱり現状を把握するのが一番だと思うよ。今、鈴木委員が言ったバラ。バラについても前の早坂建設さんたちの奥さんたちが2、

	<p>3人でバラ染めもやっているんだよね。それをただ、作ったものがどうなっているのかわからないわけさ。新聞ちょっと見ただけであってね。</p> <p>現状の町内の農産物、加工されているもの、あるいはそういう花とかがどうなっているのか、一回、下調べしなければならないのさ。それから進んでいかないと。</p>
我妻委員長	はい、副委員長。
山岸委員	<p>私が言いたいのは、さっきバラ、コメ、ナシ、大豆あるいは大葉という話が出ました。この中でただ、話がバラからコメにいたり、大豆にいたり飛んでしまうので、まずはバラの、さっき鈴木さんが言ったように出荷だけでなく余力があるのかとか、まずバラのことについて宮城大学の学生が、それをまず集中して話を出して、大体、取りまとめをして、次にコメに移るとかナシに移るとかして、うちの委員会として話をまとめた上で、バラの現状はどうなのか、ナシはどうなのか、コメはどうなのか、大豆はどうなのかということで現調に行く、そういう段取りしないとけないと思うんで。</p> <p>まず、それこそコメとかバラでなくて、一応意見を集中して、それから次にコメに移るとか、そういう話の持っていき方をしないと、なかなかまとまり、難しいと思うので、委員長、そういうふうな進め方、できたらお願いしたいと思います。</p>
我妻委員長	<p>今、副委員長からバラの次コメとか、そういうふうな順序と言われましたけれど、バラを調べてから、バラの議論をしてから次にコメと、そういう進め方がいいのか、まず今出されているような現状、何力所かそれぞれ確認した上で、そこからどういう連携をしていくというふうに議論するのか。</p> <p>今の副委員長の話だと、バラをまずやってから、その次にコメにして、そういう段階、どっちいいですかね。私は今、出たようなやつを、まず何力所か現状を確認して、そこから絞っていくという方向でどうかと思いますけれども。</p>
山岸委員	<p>私が言いたいのは、ただ、ここで漠然と皆さんが持っている知識をぱっと出して言っても、現場に行くと質問できなくなると思うんです。私たちがみんな意見、こういうのはどうなんでしょうか、こういうふうにはできないんでしょうか、こういうものは作れないでしょうかと質問するためにも、まず私たちの意見を出して、私たちはこういうふうに思うんだけどもいかがですかと質問ができないと、ただ見に行っただけで、なかなか把握できない。</p> <p>要するに、まず基本的な基礎知識を持ってないと、常任委員会として意思統一みたいな形で情報を共有する、その中で一応私たちが思っていたのと違うなというのを、現場に行くとそういう違いも分かってくると思うので、その意味で常任委員会の中できちんと、ある程度、意見を整理していったほうがいいんじゃないかなと私は思ったんです。</p>
我妻委員長	今の副委員長ののは、現場に行く際の意志統一という意味でいいんですね、

	現調をする際の。
山岸委員	うん、そう。それと同時に、こういうふうに思っていたんだけども違う なとか、皆さんがそれぞれ我々の常任委員会で、バラに関してはこういう 商品開発をして欲しいとか、こういうものもやって欲しいなという意見を まず出して、ある程度、把握しておいたほうがいいのではないかな、という 思いなんです。
我妻委員長	はい、櫻井委員。
櫻井委員	副委員長に反論するわけではないけれども、町内の農産物の現状確認と いうことで2カ所なら2カ所を把握して、把握しないことには我々がいく ら意見を持って行ったって分からないと思う。把握してからどうなのか と。やっぱり、バラとか今言った数カ所あるんだけども、それを三日くら いかけて6カ所くらい視察して、町内だから2カ所できると思うんだ。 だからその現状を把握して、それから議論を進めていっていいんじゃない だろうか。議論を先にして質問しに行くのですか。俺は違うと思うんだ けどもな。皆さんどうでしょう。
我妻委員長	はい、どう思いますか。 前原委員。
前原委員	やっぱり、机の上でなくて、その中で議論しなきゃいけないので、まず現状 として見て回ると。それから話したほうが良いと思います。
鈴木委員	以下同文です。
我妻委員長	いいですか。私も今、櫻井委員から言われた、現状をまず掴むと。どう 発展させるかは、副委員長が言われたような議論は、私はこう考える、こ うやるというのは、そのあとで議論したほうがいいのかと私は思います けれど。 問題点の一部は出された。大葉の問題もいろいろ出されている。豆を使 った味噌なんかも出されている。同じ発酵だけれども米麹の問題、そうい ったものを、今、まず町内にある現状を、皆さんから出されたようなやつ の現状がどうなっているのか掴むところから出発するというところでよろ しいでしょうか。そこからの絞っていくとか、連携の在り方とか、ど んな発展させていったほうがいいのかとか、最初から絞らないで。
櫻井委員	今の委員長が話したとおり、委員長の進め方で私はいいと思いますよ。
我妻委員長	じゃ、そういうことで今、出されたようなところをポイントに現状を把 握すると。 そうしたら、現状を確認するポイント、何と何、それをまず確認してい きたいと思いますが、場所も。 はい、櫻井委員。
櫻井委員	バラならバラ、そしてこの近くには南郷の味噌がある。2カ所できる と思う。大豆から余計な添加物を一切使ってないってね。この二つは半日で できると思いますよ。ただ、受け入れ先がどうなのか、事務局にも大変迷 惑を掛けるのではないかなと思うんだけどもね。

我妻委員長	<p>まず、現状確認の一つとしてバラね。バラだとしたら、大きくやっているのは2カ所だけど、どちらかに行つてバラの現状を。さっき鈴木委員から出されたように、加工するような体制につながるかどうかを。今は売らほうの生産しかしていないので、その辺の状況、可能性をまず確認することができるかなと。</p> <p>あとは今、出た味噌、南郷でね。</p>
櫻井委員	<p>南郷なら南郷でね、飛ばないで。南郷で受け入れができないならば、西館の農産加工グループが自家製の農産物を使用した焼肉のたれ、卵かりんとう、長者豆、コンニャクなどを生産していると。</p>
我妻委員長	<p>そこまでいくと広がってしまう。まず絞つて、味噌だったら味噌。味噌つて、あれ、この間の補助事業でやったところですよ。</p>
櫻井委員	<p>あれは、補助事業は砂山だけれども。 (「小島」の声あり) あ、砂山じゃない。小島。</p>
我妻委員長	<p>では今、櫻井委員からバラ、味噌が出ました。行くところはどちらも南郷。バラは二つあるうち一つに絞つて、味噌については小島の安部さんのところ。</p> <p>どんな状況になっているのか、これ、あとでもう一回、どういうことを聞くかのポイントはあとから確認するとしても。</p>
山岸委員	<p>ただ、味噌を作っているのは、そこだけではなくて何カ所もある。小さなグループで。</p>
櫻井委員	<p>桜木の角の経済連もあるし、こつちの鎌田醤油屋でも味噌やっているんだね。だから受け入れがうまくなければ、そういう候補地があるので、いいんだと思うよ。全部回らなきゃいけないわけではない。</p>
我妻委員長	<p>全部見るわけではない。一つの、参考にするために現状を見ると。</p>
山岸委員	<p>だから、それをどこに絞るの。小島だけに絞るの、味噌は。味噌の現調するのは。</p>
我妻委員長	<p>だから、それを今、確認していたんです。 はい、鈴木委員。</p>
鈴木委員	<p>南郷のほうの地元の味噌、南郷地域にある程度、限定した櫻井委員の提案だったんでしょから、そのほうがいいのかと思います。</p>
我妻委員長	<p>はい、副委員長。</p>
山岸委員	<p>その資料には1カ所しか載ってないですか。俺、持ってこないから、ちよつと分からなかった。</p>
櫻井委員	<p>これ、南郷のほう、お母さんたちやっているんだな。</p>
山岸委員	<p>そこ1カ所だけ、ほか何カ所か載っていないの。</p>
櫻井委員	<p>味噌はないよ。農村で受け継がれた製法の南郷味噌ということで、余計な添加物を一切使用していないと。大豆を原料にして自前の麹を使っていると。どこからか麹を持ってきてやっているのかな、自前で作っているのかもしれない。</p>

我妻委員長	<p>やっているところ、全部を回るということは不可能ですから。それで今絞るために確認しています。</p> <p>さっき出たバラ、味噌。</p> <p>大葉は見ますか。大葉はいいね。あと、ナシのピューレというのは、現状をどこで確認するのか。</p> <p>はい、鈴木委員。</p>
鈴木委員	<p>(「形の悪いのを使っている」の声)</p> <p>この間、ある議員の説明ではそうでしたが、そうではないようです。よいところを使って出しているところが多いようです。</p> <p>多分、お菓子屋を二次加工でやっている、うちの周辺の餅屋さんや南郷の小島の餅屋さん、例えば本当の元々のお菓子屋さん、駅前のお菓子屋さんとかでも加工をして、いろいろな商品化、独特な、自分のお菓子の中に取り入れてやっている部分があります。</p> <p>オフレコでいいですか、休憩してもらっていいですか。</p>
我妻委員長	はい、休憩します。
	<p>休憩</p> <p>10:30</p> <p>再開</p> <p>10:45</p>
我妻委員長	<p>再開します。</p> <p>今、私の発言のピューレから始まったものだから、大分、混乱を招いてしまったのかなと。</p> <p>まず、北浦梨をどう町の発展につなげていくのかと。その一つの形態として今、ピューレと言われているのであって、北浦梨の活用というか現状を掴むには、やっぱり生産者の部会のところと意見交換をする必要があるのではないですかね。(「それ必要だね」の声あり)</p> <p>生産者がどう考えているのか、そこから出発すると。今、部会長は。</p> <p>はい、鈴木委員。</p>
鈴木委員	新田の内藤さんかな。私も定かではありませんが、多分。
我妻委員長	<p>どうですか、今、私の報告でピューレと言ってしまったものだから、加工するほう、お菓子屋さんのほうに力点がいっちゃいましたけれど、まず北浦梨の現状を掴むには、生産者のほうと意見交換することからスタートすると。あと、確認しますけれども、行けるとすれば、生産部会の会長さんなんか、その辺は検討してもね。</p> <p>今、バラ、味噌。味噌というのは発酵に絡めてだけれども、コメの発酵等については。</p> <p>鈴木委員。</p>
鈴木委員	<p>あまり裾野を広げても大変ですので、まず3点なり、そこに絞って南郷のバラ屋さん、宮城大学からの提案もありますし。あと今のナシのほうの関係、そして味噌の関係があるので。ある程度、絞って。</p> <p>(「コメの発酵は」の声あり)</p>

	<p>なかなか裾野が広すぎますので、そこまでいかないで。ある程度、余力を少し。自分なりに勉強しながら。</p>
我妻委員長	<p>酒造会社ではどの程度まで。酒だけか、川敬さんは。</p>
山岸委員	<p>ほとんど契約栽培だよ、コメの場合はね。酒米というやつ、ほとんど契約栽培。</p>
我妻委員長	<p>はい、鈴木委員。</p>
鈴木委員	<p>酒問屋さんのほうで作っていただいて、契約栽培などもおこなった経緯がありますし、他市町になります、大崎市の蔵元と契約なさっている方もいますし。(「酒米として」の声あり)酒米として。</p>
我妻委員長	<p>町内では麴というものにつながるものは、川敬さんでも麴まで作っていないですよ。</p> <p>はい、議長。</p>
吉田議長	<p>現状からすれば、川敬、唯一の造り酒屋なのだけれども、結局、量的には酒屋としては小さいんですね。限られた容量のタンク、震災の関係もあって。前は地域の人たちにトヨニシキとか酒米用として作ってもらって、ちょっと、今はどの程度なのか定かではないんだけど。</p> <p>逆に今、川敬の造っている酒で金賞12年連続でね、それらの酒米は兵庫の、向こうから持ってきているやつなのさ。量がやっぱり確保できなくなっているみたいなのさ。</p> <p>だから、例えばコメを酒米ということに限定すると、恐らくかなり視野は狭いだろうと、面積的に。川敬だけに限定しまえばだよ。ただ、もっと視野を広げて今、一ノ蔵なんかは自分たちの会社で農業分野にまで参入してね、あとは松山の人たちと契約ということになるけれども。</p> <p>だから酒米だけではなくて、いろんな産物、契約栽培というのは年を通して安定化すると言われてはいるけれど、かなりシビアなのではないだろうか。だから、生産者側では補助金とか、転作絡みの関係で補助金なんか貰いながらやっているからだけれども、例えば自立できるくらいのもものとなってくると農家の人たちはなかなかね、現状はだよ。ただ何らかの打開はしていかないと、ということが当然、出てくると思うけれども。</p> <p>イモ類、カルビーさんで一生懸命に取り組んで面積、ことし5町歩くらい増えているかな、だから200反くらいないと産地として契約側、企業側からするとね。</p> <p>あとニンジンなんかもやっているのだけれども、やはり当然、そういう補助金なしではできない、現状としてはね。1反当たり何万円という補助金を貰うからこそ、何とかできているというような関係も一つあると思う。</p>
我妻委員長	<p>今、川敬さんの現状を議長から説明してもらいました。</p> <p>(「ちょっと定かではないけどね」の声)</p> <p>前原委員から発酵物としてコメ麴。そういったものの一つとして出た、その技術を持っている、発酵して。</p> <p>さっき副委員長からも出たように塩麴、健康ブームで塩麴の需要も随分、騒がれていること確かなの。その技術を持っている企業が、一番近いのは</p>

	<p>酒造りかなと思ったけれど、そこまでいかなければね。</p> <p>はい、議長。</p>
吉田議長	<p>ただ、川敬さんに期待できるのは、娘さんが跡継ぎになって今後、どういう考えを持ってやっていくかどうか。私、全然話もしたことがないからわからないけれども。</p>
我妻委員長	<p>意見交換していく価値はあるよね。</p>
吉田議長	<p>それはあるよ。優秀な酒を造る能力を持っているんだから。</p>
我妻委員長	<p>一回、意見交換してみる手もあるのではないですか。対象としてどうですか。（「はい」の声あり）</p> <p>川敬さん能力、技術を持っているんですね。麴を作る能力はあるわけだから。</p> <p>はい、前原委員。</p>
前原委員	<p>休憩を。</p>
我妻委員長	<p>休憩します。</p>
	<p>休憩</p> <p>10:53</p> <p>再開</p> <p>10:54</p>
我妻委員長	<p>再開します。</p> <p>はい、鈴木委員。</p>
鈴木委員	<p>今、お話があったコメの加工、もしくはこれからのことを踏まえて、ぜひ川敬さんと、視察も踏まえて、これから農工商連携に入るとすれば入れていただきたいと、ご提案申し上げます。</p> <p>（「1カ所、追加だね」の声あり）</p> <p>ま、1カ所というか、あとは精査してからだけれど。</p>
我妻委員長	<p>今、鈴木委員から出たように、これからの町の将来を考えての意見交換としてね、委員会として意見交換をするということ。さっきの梨部会と同じように、どちらも意見交換だね。そこから一緒に考えていこうと。我々の考える素材として、あるいはそれぞれの向こうの人たちにも考えてもらうきっかけになるかどうか。</p> <p>いずれ、さっきのバラも味噌も同じような意見交換を踏まえながら、現地を見させてもらうと。</p> <p>そういうことで今、4つ出ましたけれど、その辺の現状把握から出発するということです。ほかに追加しておくの、ありますか。</p> <p>（「4つに絞ったほうがいいんでないですか」の声あり）</p> <p>はい、議長。</p>
吉田議長	<p>この間、伊藤恵子さんの祝賀会で、お返しというか、地元産の大豆を使ったカレー。俺、知らなかったんですが、開発してちゃんと1食ずつパックになってね、温めれば。（「レトルト」の声あり）</p> <p>そういうの、あそこの会社で作ったんだろうね。だから、逆にそういう農家側の作る人たちだけでなく、加工とか商工の人たちの会がどの程度、</p>

	<p>本当にあるのかということが。やっぱり意欲を持っている、そういう事業主の方なんかね、やっぱり、せっかくそういう対話みたいにするのであればだよ、どうなのかと。</p>
我妻委員長	<p>今、議長から豆を使った料理の開発、一つ、カレーと。</p>
吉田議長	<p>そういうのをやっている人もいるという話だけだから。</p>
我妻委員長	<p>一つの例としてそういった、さっきの大葉のドレッシングなんかも同じように出てきているかと思うので。そこは一応、議論の中からまた検討するというので、まずはこの4つに絞って、現地を見させてもらうことと合わせて率直な意見交換をすることから出発すると。</p> <p>我々のほうは、こうやって欲しいということではなくて、まず、やっている人たちがどう考えているのか、ということによろしいですか。</p> <p>(「はい」の声あり)</p> <p>じゃ、バラについては南郷のハニーローズ、味噌は小島の安部さん、梨は部会長さんに確認して、あと川敬さん。</p> <p>一日で全部。(「無理だね」の声あり)</p> <p>ただ、相手の日程もあるので。現場を見せてもらいながら意見交換すると。3カ所とも南郷だから、川敬さんも入れると。</p> <p>ただ、相手のあることなので。(「ナシはこれから忙しくなってくる」の声あり)忙しいね。</p> <p>じゃ、ちょっと休憩します。</p>
	<p>休憩</p> <p>11:00</p> <p>再開</p> <p>11:05</p>
我妻委員長	<p>再開します。</p> <p>今、梨部会の会長さんは内藤さんだと確認いただきました。</p> <p>4カ所、確認はされましたけど、常任委員会がストレートにこの方々にコンタクトを取るよりも、産業振興課のつながりが全部あるところなので、資料の準備も含めて、町と別のやつをやるわけではないから、日程調整なんか産業振興課を窓口をお願いしたほうがいいのかなと。</p> <p>(「賛成です」の声あり)</p> <p>受けるほうも直接、議会だというより、そのほうが。</p> <p>ということで、さっきの4つについて、産業振興課のほうにお願いして、日程調整も含めて。ただ、それについても、委員会の基本的な日程、何日という枠だけ、いつ頃というか、そういうことでいいですか。</p> <p>(「はい」の声)あり)</p> <p>進め方ね。</p>
山岸委員	<p>今月、無理だな。</p>
藤田委員	<p>5月の田植えが終わって、終わらないと駄目だな。</p>
我妻委員長	<p>4月中、下旬。(「4月下旬」の声あり)4月下旬。</p>

鈴木委員	5月は花粉の交配が。花が咲くと出るんです。4月はほとんど田んぼですかね。(「4月半ばくらいに対応できないか」の声あり) 田植さえ終われば、内藤さんはイチゴもしているので、ちょっと厳しいので、多分。
我妻委員長	ただ、部会と言ったけれど、部会長さんだけでいいのかな。
鈴木委員	もし、産業振興課に対応していただけるならば、この前、六次化のピューレの部分はしていると思うので、そういうところを伝手にまた。
我妻委員長	あれも梨部会に相談しながらやってきたんだね。
鈴木委員	もちろん、そうですね。
我妻委員長	その中心メンバーにお会いしたいと、そういうことで会長さんだけに絞るのではなく、梨部会の人たちとも意見交換の場を作ってくれと、そういうことに。現場は見なくてもね、梨部会の場合はね。 すると4月、申し訳ないけど、私、20日から21日病院にいるものだから、その前の週、12、13、14。あ、ウイノナが来るのが14。(「歓迎会とかいろいろ」の声あり)20日、21、22。(「25日の週」の声あり) 25の週でいいの。農作業、大丈夫、梨農家の人たち。
鈴木委員	梨農家ですか、大丈夫かと思えます。
我妻委員長	じゃ、25の週で調整してもらっていいですか。月曜日から木曜日の間。
鈴木委員	花が咲いて、もう梨農家は花粉(「受粉」の声あり) 花が早く咲かなければ。ま、花が咲いてすぐするわけではないので、一斉に咲いてからするので。 現場でなくても、相手が都合よければというところもあるので。
山岸委員	まさか立ち話もということもないから、どこかの公民館なり地区館を借りて話をするんでしょう。
我妻委員長	じゃ、25から28の間で産業振興課に調整してもらって。もしかしたら4カ所だから、複数の日にまたがる可能性もね、1日に納まるんじゃないかと。
山岸委員	25日の日なら3カ所行くのか、2カ所にするのか。
我妻委員長	だから、それは相手の、今言ったように1日で調整できるか、2日にまたがるか。(「1日は無理でないか」の声あり) 無理だと思います。だから、バラは何日、味噌は何日と、ここで決められないから。4カ所の調整を産業振興課のほうに調整していただく。 じゃ、早速、産業振興課のほうに直接、相談しますので。 今日のところは出発の、現状把握からやるという確認で、その現状把握のポイントが4点ありまして、それぞれ現場を見せてもらい意見交換をして、それを踏まえて今後の政策に反映していくと。 じゃ、以上で今日のところはよろしいですか。 (「はい」の声あり) 副委員長、お願いします。
山岸副委員長	総務産業建設常任委員会の課題について、今日はある程度、協議してい

	<p>いただきました。</p> <p>今、委員長が言ったように4カ所に絞りまして、4カ所と言いますか、4項目と言いますか、それらについて今度は現調、現場の意見を聞きたいということで意見交換会をすることに決まりましたので、予定は4月25日以降ということですね。</p> <p>あと、またさらに私たちも、今日は鈴木さんと藤田さんに資料を出してもらいましたけれども、それぞれ自分なりにいろいろ農商工連携に関しての勉強なり、あるいは研究をしていただければ、なおさら内容が煮詰まると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>今日は大変ご苦労さまでした。</p>
--	---

会議の経過を記載して相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 年 月 日

総務、産業、建設常任委員会

委員長